

将来を見据えたクラブづくりに向けて

クラブミーティング2006「西地区」開催報告

クラブミーティング2006「西地区」(日本体育協会主催)が、6月2日・3日の両日、愛媛県松山市「ホテル奥道後」で行われた。

この事業は、文部科学省より委託を受けている「総合型地域スポーツクラブ育成推進事業」の一環で、全国を「東」「中」「西」の3地区に分け、5月中旬より、地区別に行われている。

今年度3地区の最後に開催された「西地区」の会場には、中国・四国・九州ブロックの各県から233名が集い、研究協議を繰り広げた。



～ 大橋委員長 ～ 目標に向かってさらにまい進!

みんなが活動者であり、創り手である ～ 長登課長補佐 ～

- 開会挨拶 -

主催者を代表して、日本体育協会総合型地域スポーツクラブ育成委員会の大橋美勝委員長(岡山大学)から挨拶があった。平成7年に文部科学省のモデル事業として始まったこの事業も、平成16年から日本体育協会が総合型地域スポーツクラブ育成推進事業の委託を受けて2年が過ぎ、現在本事業において250クラブが設立され、全国では2,155クラブ(準備中を含む)が、活動を行なっていることに対して、全国の関係者に感謝の言葉と、「目標にむけ更なるまい進」を呼びかけた。

続いて、文部科学省スポーツ・青年局生涯スポーツ課長登 健課長補佐から、本日参加の新規クラブの方は、スポーツクラブ設立に向け、不安も大きいと思うが、日本体育協会では各都道府県にアドバイザーの設置、また、研修会等も開催しているので、事業達成のために着実な事業実施を行ない、「みんなが活動者であり、創り手である」そんなスポーツクラブを創ってほしいとの期待が寄せられた。

引き続き、日本体育協会クラブ育成課根本課長より平成18年度総合型地域スポーツクラブ育成推進事業の概要や予算規模、委託金の内容、昨年からの変更点等が説明された。

クラブミーティング2006(西地区)スケジュール

1. 開会セレモニー
2. 事業の概要説明
3. 特別講演
テーマ:クラブ創設に向けた取り組みについて
演者:中西 純司(中央企画班班長/九州地方企画班長)
4. 情報交換・討議
方法:テーマ別グループミーティング
コーディネーター:中平 俊人(九州地方企画班員)
5. 事例発表
テーマ:総合型クラブ設立に向けた活動について
演者:堺 賢治(愛媛大学総合型地域スポーツクラブ/愛媛県松山市)
演者:森岡 弘道(Goppo ええぞなクラブ/山口県宇部市)
コーディネーター:曾根 幹子(中国・四国地方企画班員)
6. 事業の事務処理説明
*クラブ育成アドバイザーの役割(対象:県クラブ育成アドバイザー)
演者:小松 弘幸(高知県体育協会クラブ育成アドバイザー)

地域社会を地域コミュニティに変える。夢のあるクラブづくりを

- 特別講演 -

「クラブ創設に向けた取り組みについて」と題して、中央企画班副班長の中西純司さん（福岡教育大学）による講演があった。

まず最初に、育成指定クラブの方々が、設立前及び実践を通して理解しておいてほしいポイントについて話があった。その内容は、本育成推進事業の位置づけ 地域社会と地域コミュニティの違い 総合型クラブづくりの基本 自主運営の考え方の4項目をあげられ、項目ごとに、



丁寧に基本的な考え方や実践方法等の話があった。その中で、スポーツクラブに重要なのは「何のために創るのか」であり、あくまでも、スポーツクラブは手段で目的ではないということである。そのためには、みんなが私たちの町を考えること、共生・共存の原理（異質なものも認め合う）、住民主体の活動、自主的な発想が重要と話された。また、スポーツクラブが地域の不満・夢（寝た子を起こして）の解消・実現できるのならとことん頑張ってくださいと激励され、最後に、地域の人材は宝、地域社会を地域コミュニティに変え、夢のようなクラブを創りまじょうと締めくくられた。

キーワード別に情報交換、ネットワークづくりも積極的に

- 情報交換・討議 -

情報交換・討議では、九州ブロック地方企画班員の中平稔人さん（福岡県立スポーツ科学情報センター）がコーディネーターを務め、テーマ別グループミーティングと全体会で討論が行なわれた。

グループミーティングでは、「理念」「人材」「施設」「既存団体・組織との連携」「事業」「財源」のテーマに分かれ、まず、各指定クラブの現況や今後に向けての不安点をグループ内で共有し、その後、クラブ育成アドバイザー・地方企画班も加わり、時間の経過も忘れ、活発な意見が交わされた。



この後行われた全体会では、各テーマから代表して1クラブが報告を行ない、テーマの課題や対処法のヒントを各テーマ別から全体の共有とした。最後に、中平さんより、「JOCの強化方針の中で、地域に期待することとして、「アスリートは地域に生まれ、地域で育つ」、地域でスポーツができる環境づくり、地域の連携が取り上げられ始めた。地域でスポーツを行なう皆さんは、自分たちの活

テーマ別グループミーティング

- テーマ1：クラブの理念・目的----- 4グループ
- テーマ2：人材の確保----- 4グループ
- テーマ3：活動拠点の確保----- 1グループ
- テーマ4：既存団体・組織等との連携--- 4グループ
- テーマ5：クラブの事業----- 5グループ
- テーマ6：財源の確保----- 4グループ

動に自信を持ち頑張りましたと締めくくった。

5年後、10年後のグランドデザインをしっかりと！

- 事例発表 -

2日目の事例発表では、中国・四国ブロック地方企画班員の曾根幹子さん（広島市立大学）がコーディネーターを務め、愛媛大学総合型地域スポーツクラブ（愛媛県）クラブマネジャーの堺 賢治さんと、Goppoええぞなクラブ（山口県）事務局長の森岡弘道さんより、取り組みについての事例発表があった。

愛媛大学総合型地域スポーツクラブの堺クラブマネジャーから、国立大学として初めて大学内にスポーツクラブを立ちあげられた経緯が話された。クラブづくりは人づくりであるとの理念を掲げ、活動は、「過去を分析し、未来を考え、現在を行なう」ことを基本に考え、何よりも、スポーツが地域を変えると強い信念を持ち活動されている。また、現在までの活動の中で、5年後、10年後のグランドデザインをしっかりと持ち、合意形成・理念・行動力が重要であるとの発表があった。

引き続きGoppoええぞなクラブの森岡事務局長から、地域にスポーツクラブの必要性を感じ、育成指定クラブとなり、活動を開始したが、当初皆さんに話を聞いてもらえなかった時期、その原因を考え、スタッフ全員でそれを乗り越え、クラブ設立を行なったいくつかのポイントとなった事例が話された。まず、節目ごとで地域の現状把握や育成方針の整理を行なったこと。プログラムに付加価値をつけ（例：ゴミ拾いウォーキング、史跡巡りウォーキング等）社会的認知度をあげる。また、5年後、10年後のグランドデザインをしっかりと持ち、クラブの方向性を決めていく重要性が話されました。最後に、森岡さんから、私たちが楽しくなければ、みんなは振り向いてくれません。

苦労しながらも楽しくクラブづくりをしましょうと会場に投げかけられた。

その後、会場との質疑応答では、時間が足りないほどの質問が投げかけられ、各育成指定クラブのクラブに対する熱い心や各地域で頑張っている仲間がいることを確認し事例発表を終了した。

この後、クラブ育成課金谷主事が、委託事業の事務処理等を説明し、継続と新規クラブが混在する中で、昨年度と変更になったことを含め、事務処理方法について説明した。

説明の後、県体育協会担当者とクラブ育成アドバイザーを対象に、クラブ育成アドバイザーの役割をテーマに、高知県体育協会クラブ育成アドバイザー小松弘幸氏が、自らが活動してきた内容や体験したことを報告し、全日程を終了した。

（報告：中国・四国ブロック地方企画班員 菅岡 克則）